

### 第3回 コミュニケーション教育研究会 議事録

日時：平成19年6月13日（水） 16:30-18:45

場所：湘北短期大学 1号館 128教室

参加者：藤沢高校 住谷先生、齋藤先生；茅ヶ崎高校 三橋先生；有馬高校 宮地先生；  
二宮高校 岩崎先生  
湘北短期大学 岩崎、小野目、小田井、藤澤、小棹（敬称略）  
慶應義塾大学 西田みづ恵（M1）、蒲地亜紗

配布資料： 1. 第2回 コミュニケーション教育研究会 議事録  
2. ケースメソッド 参考資料（西田）  
3. 資料：テキストの名称「湘北短期大学入学前実践プロジェクト（仮称）」（住谷）  
4. テキストイメージと章立て資料（小棹）

内容：

#### 1. 高校向けケースメソッドの紹介（西田）

高知県大方高校の例（配布資料は一般人向け）

毎年実施しているTシャツ大会の活性化のためのグループワーク。

Q：事例は地方の高校で、地域活性化のために実践している例が多いが、神奈川の生徒に問題意識を持ってもらえるかどうか。

A：むしろ都心や神奈川県内の生徒に可能性にチャレンジしてもらいたいが、現時点では実施しないことが決まっている。実績をあげてから神奈川県で実践したい。

Q：本例の問題の所在と実施例の詳細について

A：参加者は20人が最適規模。生徒だけでなく、先生や地域住民が参加されることが望ましい。2時間/回。本方法はリーダー役がキーになる。試験的に15分の遠隔授業を行ったが、リーダー役がうまく機能せず、失敗に終わった。

#### 2. 二宮高校 岩崎先生紹介（新規参加）

#### 3. 前回議事録確認

#### 4. 入学前授業プログラムの内容に関して

Q：大学で必要とされる知識を補うための授業か、それとも進度の遅れている生徒のサポートか

A：高校一大学1年で、卒業後も必要とされる基礎的な知識・能力を高めるための授業をプログラムしたい。連携の中で開発し、拡大できるようなものをめざしたい。連携校の生徒は、入学前に大学の教育資源を利用してそのような能力をつけられる、という点で大きなアドバンテージが得られると思う。

● 下記授業プログラム（テキスト）内容の再確認

##### 1. 人間と情報

